原田慶吉教授略年譜・著作目録（十四訂稿）

（令和 7（2025）年 2 月 25 日（火）現在）

〔目　　次〕

（作成経緯）　……3
【参考 HP】　……5
【関連 HP】　……9
十四訂稿はしがき　……10
十三訂稿はしがき　……10
十二訂稿はしがき　……10
十一訂稿はしがき　……11
十訂稿はしがき　……12
九訂稿はしがき　……12
八訂稿はしがき　……12
七訂稿はしがき　……12
六訂稿はしがき　……13
五訂稿はしがき　……13
（四訂版に当たりて）　……15
（三訂版に当たりて）　……15
（二訂版に当たりて）　……16
（改訂版に当たりて）　……16
はじめに（初版）　……16

1 略年譜　……19
2 著作目録　……21
（1）著書・訳書　……21
（2）論説　……24
（3）邦訳　……27
（4）書評　……29
（5）その他　……30
（6）書簡集（令和 6（2024）年 8 月 11 日新設）……32
（7）原田慶吉教授試験問題……33
（8）原田慶吉教授関連著作　……35
（9）原田慶吉教授関連報告　……44
（10）インターネット関係　……47
（原田慶吉電子文庫　和田徹氏「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」所蔵）
〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/〉⇒〈http://tosyokan.my.coocan.jp/〉
（11）久保正幡博士の御逝去　……48

（作成経緯）

・平成 9（1997）年 3 月 27 日（木）　初版（稿）作成
・平成 10（1998）年 3 月 1 日（日）　改訂版（稿）作成
HP 初載:・平成 15（2003）年 10 月 1 日（木）　二訂版（稿）作成、アップ（テキスト版で作成）
（爾後、三訂版（稿）、四訂版（稿）とは別途に、HP 上で補訂を繰り返す。）
・平成 18（2006）年 10 月 1 日（日）　三訂版（稿）作成（アップせず。）
・平成 25（2013）年 9 月 1 日（日）　四訂版（稿）作成（アップせず。）
・平成 29（2017）年 11 月 21 日（火）　五訂稿作成（PDF 版に変更）

****
（以下当面「五訂稿」の部分改訂とする。）
・平成 29（2017）年 12 月 15 日（金）　五訂稿之 2 作成
（『帝国大学新聞』昭和 6 年関係記事追加）
・平成 30（2018）年 6 月 10 日（日）　五訂稿之 3 作成
（一部修正、関係文献追加）
・令和 2（2020）年 4 月 15 日（水）　五訂稿之 4 作成
（全体微修正）
・令和 3（2021）年 1 月 20 日（水）　五訂稿之 5 作成
（全体微修正）
・令和 3（2021）年 11 月 5 日（金）　五訂稿之 6 作成
（レイアウト全面変更、一部修正）
****

・令和 4（2022）年 4 月 1 日（金）　六訂稿作成
（一部修正）
（『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録―【参考篇】【附篇】―ローマ法・法制史学者著作目録選（第十五輯）―』（令和 4（2022）年 4 月 1 日刊）に収録。）
・令和 4（2022）年 7 月 2 日（土）　七訂稿作成
（一部修正）
・令和 5（2023）年 1 月 7 日（土）　八訂稿作成
（一部修正）
・令和 5（2023）年 2 月 26 日（日）　九訂稿作成
（一部修正）

・令和 5（2023）年 7 月 18 日（火）　十訂稿作成

（今般北康宏教授の貴重な『中田薫』（人物叢書、吉川弘文館、令和 5（2023）年 8 月 1 日刊）が刊行されたことから追加するとともに、全体にわたり一部修正した。）

〈http://www.yoshikawa-k.co.jp/book/b626819.html〉

・令和 6（2024）年 3 月 17 日（日）　十一訂稿作成

（一部修正。和田徹氏 HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」が令和 5(2023)年 12 月 31 日に閉館された。⇒後再開される。）

・令和 6（2024）年 6 月 7 日（金）　十二訂稿作成

（「2 著作目録」中に「(6) 原田慶吉教授試験問題」、「(8) 原田慶吉教授関連報告」を新設追加するとともに、全体にわたり一部修正した。また、本稿が電子版であることに鑑み、今回より黒、赤二色版に変更した。）

・令和 6（2024）年 8 月 11 日（日）　十三訂稿作成

（辻泰一郎・西川洋一両教授「(資料) 原田慶吉 欧州発 久保正幡宛書簡（1936−1938 年)」『国家学会雑誌』第 137 巻第 5/6 号（令和 6（2024）年 6 月刊）103～170 頁及び中田薫 北康宏教授編・解説『日本法制史講義 公法篇』(講談社学術文庫、令和 6 (2024) 年 7 月 9 日刊）公刊につき、一部修正、追加した。）

・令和 7（2025）年 2 月 25 日（火）　十四訂稿作成

（上記辻泰一郎・西川洋一両教授「(資料) 原田慶吉 欧州発 久保正幡宛書簡（1936−1938 年)」『国家学会雑誌』第 137 巻第 5/6 号（令和 6（2024）年 6 月刊）を補完する西川洋一教授「「原田慶吉 欧州発 久保正幡宛書簡」補遺」『国家学会雑誌』第 138 巻第 1/2 号（令和 7（2025）年 3 月刊）139～145 頁公刊につき、一部修正、追加するとともに、全体にわたり気付きしところを補正した。）

【参考 HP】（令和 3（2021）年 11 月 15 日全面差替、同年 12 月 30 日、同 4（2022）年 7 月 2 日、令和 5（2023）年 1 月 7 日各一部修正）

＊法制史学会 HP（平成 14（2002）年 10 月 5 日公開、平成 24（2012）年 4 月 1 日移転）
〈http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalha/toppage.htm〉 ⇒
（新） 〈https://www.jalha.org/〉
・〈https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8A%E5%B1%B1%E5%AE%89%E6%95%8F〉
＊全体 HP
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/〉
・「日本のローマ法」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Romanist2003.htm〉
・「法制史学者著作目録選（WEB 版）」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm〉
・「「法制史コーナー」所載項目一覧」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ichiran002.pdf〉

****

・本 HP 別稿：宮崎道三郎博士略年譜・著作目録
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/miyazaki001.pdf〉
・本 HP 別稿：池辺義象氏著作目録
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ikebe001.pdf〉
・本 HP 別稿：三浦周行博士関係資料抄
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/miura001.pdf〉
・本 HP 別稿：中田薫博士関係資料抄
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakata001.pdf〉
・本 HP 別稿：牧健二博士関係資料抄
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/makikenji001.pdf〉
・本 HP 別稿：内藤吉之助教授略年譜・著作目録
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/naito001.pdf〉
・本 HP 別稿：瀧川政次郎博士関係資料抄
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takikawa001.pdf〉
・本 HP 別稿：金田平一郎博士略年譜・著作目録
〈http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kaneda001.pdf〉
・本 HP 別稿：小早川欣吾先生略年譜・著作目録
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa001.pdf〉
・本 HP 別稿：「小早川欣吾先生記念メダルによせて
—小田輝子氏「叔父小早川欣吾の思い出」とともに—」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/odateruko.pdf〉
・本 HP 別稿：「『小早川欣吾先生東洋法制史論集』収録論稿目次その他」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa_toyohoseishi.pdf〉

・本 HP 別稿: 牧英正博士著作目録等抄
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/maki001.pdf〉
・本 HP 別稿: 小林宏先生著作目録等抄
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayashi001.pdf〉
・本HP別稿: 千賀鶴太郎博士著作目録
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/senga001.pdf〉
・本HP別稿: 戸水寛人博士著作目録
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tomizu001.pdf〉
・本HP別稿: 春木一郎博士略年譜・著作目録
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/haruki001.pdf〉
・本HP本稿: 原田慶吉教授略年譜・著作目録
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/harada2003.htm〉
・本HP別稿: 船田享二博士略年譜・著作目録
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/funada2003b.htm〉
・本HP別稿: 田中周友博士略年譜・著作目録
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tanaka2003b.htm〉
・本HP別稿: 栗生武夫先生略年譜・著作目録
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu001.pdf〉
・本 HP 別稿: 「栗生武夫先生『婚姻法の近代化』の中訳本について」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_chuhon.pdf〉
・本 HP 別稿: 「『栗生武夫先生随筆拾遺』作成の思い出
—『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯』—」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui.pdf〉
・本 HP 別稿: PDF 版『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui_002.pdf〉
・本HP別稿: 西本頴博士著作目録等抄
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimoto001.pdf〉
・本HP別稿: 久保正幡博士著作目録等抄
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kubo001.pdf〉
・本HP別稿: 井上周三教授関係資料抄
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/inoue001.pdf〉
・本HP別稿: 上山安敏先生著作目録等抄
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ueyama001.pdf〉
・本HP本別稿: 筧克彦博士略年譜・著作目録
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kakei001.pdf〉
・本HP別稿: 近藤英吉博士略年譜・著作目録
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kondo001.pdf〉

・本HP別稿: 増田福太郎博士関係資料一斑
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/masuda001.pdf〉
・本 HP 別稿: 山崎丹照先生著作目録
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yamazaki001.pdf〉
・本 HP 別稿: 戴炎輝博士略年譜・著作目録
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai_Yen-hui001.pdf〉

****

＊和田徹氏HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」（⇒令和5（2023）年12月31日閉館）
〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/〉
・春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/haruki.htm〉
・原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm〉
・栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/kuryu.htm〉
・いろいろ電子文庫
〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/iroiro.htm〉
・PD 図書室（「梅雨空文庫」のデータを整理してまとめたもの）
〈http://books.salterrae.net/about/tuyuzora.html〉
（註）早くには「船田享二電子文庫」の平成22（2010）年開設予告もなされていた（平成14（2002）年12月14日初出か? ）が、その後平成18（2006）年6月3日に「2006/06/03 船田享二電子文庫計画中止」の表示が出た。

…… ……

＊先に閉館した上記和田徹氏 HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」は、令和 6（2024）6 月 5 日（水、公開公表日）に「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」として再開された。
〈http://tosyokan.my.coocan.jp/〉 （令和 6（2024）年 6 月 7 日追加）
・春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
〈http://tosyokan.my.coocan.jp/haruki.htm〉
・原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
〈http://tosyokan.my.coocan.jp/harada.htm〉
・栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
〈http://tosyokan.my.coocan.jp/kuryu.htm〉
・いろいろ電子文庫
〈http://tosyokan.my.coocan.jp/iroiro.htm〉

・梅雨空文庫
〈http://tosyokan.my.coocan.jp/tuyuzora.htm〉

****

＊「西村稔先生（1947～2019）年譜・著作目録（阪本尚文編）（初版）（2020（令和2）年4月現在）」 ⇒爾後逐次改訂中 ⇒（最新版: 令和5（2023）年11月現在第8稿掲載）
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimura001.pdf〉
（註）本著作目録は、阪本尚文編『Aún aprendo それでもまだ学ぶぞ――西村稔先生追悼集』（私家版、2020（令和2）年2月28日刊（福島大学学術機関情報リポジトリ所収〈http://hdl.handle.net/10270/5154〉）に収録した「西村稔先生年譜・著作目録」に逐次修正を加えつつあるものである。

****

【関連 HP】（令和 3（2021）年 11 月 15 日全面差替、同 4 年 4 月 1 日、同 7 月 2 日、同 5（2023）年 1 月 7 日、同 6（2024）年 3 月 17 日各一部修正）

・法制史学会: 〈https://www.jalha.org/〉

・国立国会図書館: 〈https://www.ndl.go.jp/〉

・国立国会図書館デジタルコレクション〈https://dl.ndl.go.jp/〉

・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）（令和 4（2022）年 5 月 19 日開始）

〈https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html〉

（下記: 令和 5（2023）年 1 月 26 日追加）

〈https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2022/221202_01.html〉

「ホーム>新着情報>ニュース> 「国立国会図書館デジタルコレクション」をリニューアルします（令和 4 年 12 月 21 日）

「2022 年 12 月 2 日「国立国会図書館デジタルコレクション」をリニューアルします（令和 4 年 12 月 21 日）」

国立国会図書館は、令和 4 年 12 月 21 日に、国立国会図書館デジタルコレクションをリニューアルします。リニューアルにより、全文検索可能なデジタル化資料が増加するとともに、閲覧画面が改善されます。詳しくはプレスリリースをご覧ください。」

・（下記: 令和 6（2024）年 1 月 1 日追加）

「2024 年 1 月 5 日 新「国立国会図書館サーチ」を公開しました」⇒

「国立国会図書館は、従来のウェブサービス「国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（国立国会図書館オンライン）」及び「国立国会図書館サーチ」を統合・リニューアルし、令和 6 年 1 月 5 日（金）から、新「国立国会図書館サーチ」としてサービスを開始しました。」

〈https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2023/240105_01.html〉

・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー

〈https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/〉

・CiNii: 〈https://ci.nii.ac.jp/〉⇒〈https://cir.nii.ac.jp/〉（【［2022］4/18 更新】CiNii Articles の CiNii Research への統合について）、〈https://ci.nii.ac.jp/books/〉

・朝日新聞クロスサーチ（令和 4（2022）年春「聞蔵Ⅱビジュアル」を全面リニューアル）

〈http://www.asahi.com/information/db/2forl.html〉

・ヨミダス歴史館

〈https://database.yomiuri.co.jp/about/rekishikan/〉

・毎索（マイサク）

〈http://xn--https-ft8kv51h//mainichi.jp/contents/edu/maisaku/〉

・雑誌記事索引集成データベース「ざっさくプラス」（令和 5（2023）年 1 月 26 日追加）

〈http://info.zassaku-plus.com/〉

〈 https://zassaku-plus.com/service/login?return_url=https%3A%2F%2Fzassaku-plus.com%2F〉

****

十四訂稿はしがき

昨夏作成の十三訂稿で追加した辻泰一郎・西川洋一両教授「(資料) 原田慶吉 欧州発 久保正幡宛書簡（1936−1938 年)」『国家学会雑誌』第 137 巻第 5/6 号（令和 6（2024）年 6 月刊）に関し、今般それを補完する西川洋一教授「(資料)「原田慶吉 欧州発 久保正幡宛書簡」補遺」『国家学会雑誌』第 138 巻第 1/2 号（令和 7（2025）年 3 月刊）139～145 頁が刊行されたので、一部補正した。本来ならば上記両稿所載の貴重、詳細な注、解説により全面改訂の要あるも、未だ諸般の事情から他日に譲らざるを得ないことを遺憾とす。今回御高論を賜った西川洋一教授の御厚意に深く感謝申し上げます。

令和 7（2025）年 2 月 25 日

編　者　謹　誌

****

十三訂稿はしがき

今般辻泰一郎・西川洋一両教授「(資料)　原田慶吉 欧州発 久保正幡宛書簡（1936−1938 年)」『国家学会雑誌』第 137 巻第 5/6 号（令和 6（2024）年 6 月刊）103～170 頁及び中田薫 北康宏教授編・解説『日本法制史講義 公法篇』(講談社学術文庫、令和 6（2024）年 7 月 9 日刊) が公刊されたことから、全体にわたって一部補正した。本来ならば前掲「資料 原田慶吉 欧州発 久保正幡宛書簡（1936−1938 年)」所載の貴重、詳細な注、解説により全面改訂の要あるも、諸般の事情から他日に譲らざるを得ないことを遺憾とす。御高著、御高論を賜った辻泰一郎、西川洋一及び北康宏三教授の御厚情に深く感謝申し上げます。

令和 6（2024）年 8 月 11 日

編　者　謹　誌

****

十二訂稿はしがき

令和 6（2024）年 5 月 26 日（日）法制史学会第 75 回総会（於阪大）における〔ミニ・シンポジウム 2〕「日本における法史研究の歴史（2）：1920-1945/50 年」中で、宮坂渉教授「戦間期から戦時期にかけての古代ローマ法研究――田中周友と原田慶吉」なる報告がなされたことから、「2 著作目録」に「（8）原田慶吉教授関連報告」を新設追加し、一、二言及した。

〈https://www.jalha.org/wordpress/wp-content/uploads/2024/03/ca5c17ada0f4efae565d7de5659ff172.pdf〉、〈https://www.jalha.org/soukai2/〉

また、令和 6（2024）年 3 月 19 日沓抜憲氏の御厚意で帝大プリント聯盟編『最新 東京帝国大学 法学部試験問題集―昭和拾年三月―昭和拾五年六月―』（帝大プリント聯盟、昭和 15（1940）年 12 月 20 日刊）の御恵投に与ったこと、先に閉館した和田徹氏 HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」が令和 6（2024）年 6 月 5 日（水、公開公表日）に再開された〈http://tosyokan.my.coocan.jp/〉こと等から、全体にわたって一部補正した。

令和 6（2024）年 6 月 7 日

編　者　謹　誌

****

十一訂稿はしがき

令和 5（2023）年 12 月 24 日偶々知人から「春木一郎電子文庫」、「原田慶吉電子文庫」等を収載していた和田徹氏の貴重なサイト「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/〉に「告知 2023 年 12 月 31 日をもって閉館」（2023/12/12 閉館告知）が出ている旨を教えられ、吃驚仰天した。寔に残念で寂しいことであった。この「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」は旧館が平成 13（2001）年 11 月 11 日開設、同 15（2003）年 5 月 10 日閉鎖、即新館に移転とのことであるので、二十数年間公開されてきたことになる。ちなみに、ローマ法関連では、この他「船田享二電子文庫」の平成 22（2010）年開設予告もなされていた（平成 14（2002）年 12 月 14 日初出か? ）が、これは何故か平成 18（2006）年 6 月 3 日に、「2006/06/03 船田享二電子文庫計画中止」の表示が出た。今は、ただただ同サイトの長期にわたる大変な御寄与、御貢献に敬服と深謝の念あるのみである。（ただし、後に再開された。令和 6（2024）年 8 月 11 日追記。〈http://tosyokan.my.coocan.jp/〉）

これを承け、やや遅ればせながらではあるが、十一訂稿を作成することとした。なお、本稿は電子版であることに鑑み、今後は黒赤 2 色使用にすることとした。

令和 6（2024）年 3 月 17 日（日）

編　者　謹　誌

****

十訂稿はしがき

今般長く待たれていた北康宏教授『中田薫』（人物叢書、吉川弘文館、令和 5（2023）年 8 月 1 日刊）が刊行されたことから、追加するとともに、全体にわたり、一部補正した。〈http://www.yoshikawa-k.co.jp/book/b626819.html〉

令和 5（2023）年 7 月 18 日（火）

編　者　謹　誌

****

九訂稿はしがき

国立国会図書館デジタルコレクション所蔵書 URL をできるだけ追加記載するとともに、全体にわたり一、二補正した。

令和 5（2023）年 2 月 26 日（日）

編　者　謹　誌

****

八訂稿はしがき

全体にわたり一、二補正した。

令和 5（2023）年 1 月 7 日（土）

編　者　謹　誌

****

七訂稿はしがき

全体にわたり一、二補正した。

令和 4（2022）年 7 月 2 日（土）

編　者　謹　誌

****

六訂稿はしがき

平成 29（2017）年 11 月 21 日作成の五訂稿以降、下記のように五訂稿之 2～同 6 まで部分的改訂を続けたが、ここに改めて六訂稿を掲載することとなった。更なる御示教をお願いするものである。

・平成 29（2017）年 12 月 15 日（金）　五訂稿之 2 作成
（『帝国大学新聞』昭和 6 年関係記事追加）
・平成 30（2018）年 6 月 10 日（日）　五訂稿之 3 作成
（一部修正、関係文献追加）
・令和 2（2020）年 4 月 15 日（水）　五訂稿之 4 作成
（全体微修正）
・令和 3（2021）年 1 月 20 日（水）　五訂稿之 5 作成
（全体微修正）
・令和 3（2021）年 11 月 5 日（金）　五訂稿之 6 作成
（レイアウト全面変更、一部修正）

・令和 4（2022）年 4 月 1 日（金）　六訂稿作成
（一部修正）

編　者　謹　誌

（本六訂稿は、『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録―【参考篇】【附篇】―ローマ法・法制史学者著作目録選（第十五輯）―』（令和 4（2022）年 4 月 1 日刊）に収録した。）
〈https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I032127903〉
〈https://cir.nii.ac.jp/crid/1130010676870877056〉

****

五訂稿はしがき

HP「日本のローマ法」掲載のテキスト版「原田慶吉教授（1903～1950）」〈http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/harada2003.htm〉は、「著作目録（二訂版〈稿〉）（平成 15 年 10 月 1 日現在）」を基にして、補訂を繰り返し（補訂履歴: 平成 16 年 5 月 27 日、平成 17 年 1 月 16 日、10 月 18 日、平成 18 年 2 月 17 日、5 月 3 日、6 月 11 日、

平成 19 年 8 月 1 日、8 月 4 日、8 月 20 日、12 月 23 日、12 月 29 日、平成 20 年 2 月 22 日、3 月 18 日、8 月 15 日、8 月 23 日、11 月 16 日、12 月 19 日、平成 21 年 2 月 4 日、5 月 5 日、7 月 16 日、平成 22 年 6 月 6 日、7 月 11 日、10 月 15 日、平成 25 年 2 月 7 日、平成 27 年 7 月 16 日、10 月 27 日、平成 28 年 10 月 8 日)、最終的には「(最新補訂: 平成 28 年 10 月 8 日)」現在で今に至った。

平成 18（2006）年作成の「三訂稿」との関連については、冒頭註で、「(註)：平成 18（2006）年 10 月 1 日に、別途、冊子版、CD 版で、「原田慶吉教授著作目録（三訂稿)」を作成した(『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授略年譜・著作目録－日本ローマ法学五先生略年譜・著作目録（三訂版） －ローマ法・法制史学者著作目録選（第七輯)』(平成 18 年 10 月 1 日刊)。しかるに、本稿は、諸般の事情により、平成 15 年 10 月 1 日作成の二訂稿を適宜補訂しているものであって、上記三訂稿を基にしているものではないことをお断りしておく。(平成 19 年 12 月 23 日追加)」と記したところである。

その後、平成 25（2013）年 9 月 1 日に、CD 版『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士・池辺義象氏略年譜・著作目録―日本ローマ法学七先生略年譜・著作目録（新訂版）― ―ローマ法・法制史学者著作目録選（第 10 輯）―』(平成 25（2013）年 9 月 1 日刊。既刊第七輯、第九輯の改訂合体版。ただし冊子版は作成できず CD 版のみあり。）中で、原田慶吉教授については四訂版（稿）を作成したが、これも、HP 上には反映できずにいた。

しかるに、今般、諸般の事情により、「日本のローマ法」及び「法制史学者著作目録選(WEB 版)」掲載のもののうちテキスト版でアップしたままになっているものを、他との整合性をとるためすべて PDF 版と差し替えることにしたことから、原田慶吉教授分についても、新たに上記四訂稿を基にして五訂稿を作成し、PDF 版で掲載することとした。

すなわち、本五訂稿は、平成 25（2013）年 9 月作成の四訂稿以降に気がついたものを中心に多少の改訂を加えたものである。追加分については追加年月日を記載し、四訂稿以降のものであることを明示した。国立国会図書館のデジタル資料についてはその後名称変更等がなされているが、諸々の制約で本稿ではそれを反映させていないことをお断りしておく。いずれ修正の予定でいる。

前回改訂後早くも四年余の歳月を閲し、本来ならば更に精査すべきであったが、今回は急に思い立って差し替えたため、ほとんどなにもできなかったことを甚だ遺憾に思う。出来るだけ早く六訂稿作成に向けて努力したいと考えているので、御示教いただければ幸いである。

なお、周知のように、原田慶吉教授著作の一部については、和田徹氏の貴重な HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館)」中に「原田慶吉電子文庫」が存在する。是非とも御参照願いたい。

〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/〉

〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm〉

抑々本稿作成の発端は、これも、五十年もの昔御理解と御示唆を賜った上山安敏先生の御厚情に拠る。改めてここに先生に厚く御礼申し上げるものである。

平成 29（2017）年 11 月 21 日

編　者　謹　誌

（今後「訂正版」は「訂正稿」を使用する。平成 30（2018）年 6 月 10 日誤植訂正。）

（参考）

五訂稿は、その後、CD 版『ローマ法、法制史、明治警察史及び日本統治下台湾警察史の諸問題―ローマ法・法制史学者著作目録選（第十三輯）― ―明治警察史雑纂（第四輯）― ―日本統治下台湾警察史雑纂（第八輯）―』（平成 30（2018）年 1 月 1 日刊。ただし冊子版は作成できず CD 版のみあり。）に収録。（平成 30 年 6 月 10 日追加）

****

（四訂版に当たりて）

四訂版発行に当たり、更に補正した。なお、上記「原田慶吉電子文庫」については、近年はネット環境もよくなり、問題は既に解消されていることを附記しておく。

（平成 25 年 9 月 1 日誌）

（原載: CD 版『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士・池辺義象氏略年譜・著作目録―日本ローマ法学七先生略年譜・著作目録（新訂版）― ―ローマ法・法制史学者著作目録選（第十輯）―』（平成 25（2013）年 9 月 1 日刊））

****

（三訂版に当たりて）

三訂版発行に当たり、更に補正した。なお、上記「原田慶吉電子文庫」については時折閉鎖される場合があることを附記しておく。

（平成 18 年 10 月 1 日誌）

（原載:『春木一郎博士･原田慶吉教授･田中周友博士船田享二博士･武藤智雄教授 略年譜･著作目録―日本ローマ法学五先生略年譜･著作目録（三訂版）― ―ローマ法・法制史学者著作目録選（第七輯）―』〈平成 18（2006）年 10 月 1 日刊〉）

****

（二訂版に当たりて）

二訂版発行に当たり、更に補正した。

近年、「原田慶吉電子文庫」を有する和田徹氏のホームページ「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」（旧館は、平成 13 年 11 月 11 日開設、同 15 年 5 月 10 日閉鎖、新館に移転。）が公開されている。「原田慶吉電子文庫」の完成が期待されるところである。〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/〉を参照。

（平成 15 年 10 月 1 日誌）

（原載: 『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士略年譜・著作目録—日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録（二訂版）— —ローマ法・法制史学者著作目録選（第二輯）—』（平成 15 年 10 月 1 日刊）（春木博士，原田教授,田中博士分は各二訂稿、船田博士分は六訂稿。第一輯の正誤表あり。）

****

（改訂版に当たりて）

改訂版発行に当たり、二、三補訂した。

（平成 10 年 3 月 1 日誌）

（原載: 『日本ロ—マ法学四先生略年譜・著作目録（初稿）〔改訂版〕』（春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士）（平成 10（1998）年 3 月 1 日刊））

****

はじめに（初版）

原田慶吉教授については、光栄にも近年久保正幡先生の御指導を親しく賜わる機会を得ていることから、いろいろお話しを伺うことができた。また、昨秋、西村重雄先生よりも、原田教授の御著作目録を作成することにつき、おすすめを戴いた。

今般、「田中周友博士略年譜・著作目録」を作成したのを機に、大変僭越なことではあるが、原田教授のそれをも作成させて戴くこととした。原田教授の御著作については、夙に片岡輝夫教授「原田慶吉先生の逝去を悼みて」『法制史研究 3（1952）』（昭和 28（1953）年 11 月 20 日刊）中に詳細に記載されており、本稿は、単にそれを抽出して箇条書的にまとめ直しただけにすぎない。ただ、二、三気付いたことは追加しておいた。識者の御教示を得て、より正確を期したいと考えているので、宜しく御指導の程をお願いいたしたい。

久保正幡先生、西村重雄先生の御懇篤なる御高教に対し、ここに衷心より謝意を表する次第である。

平成９（1997）年３月 27 日

編　者　謹　誌

（原載:『日本ロ―マ法学四先生略年譜・著作目録（初稿)』(春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士）（平成 9（1997）年 3 月 27 日刊）（参考)『法律時報』平成 9 年 12 月号（第 69 巻第 13 号）所掲「1997 年学界回顧」（西洋法制史、瀧澤栄治教授御担当個所、225 頁))

****

1 略年譜

明治 36（1903）年 7 月 30 日　　神戸市に生まる（本籍地: 高知県）
大正 9（1920）年 ?月（6 月? 日か? ）　　兵庫県立神戸第一中学校四年修了
　　同　年 9 月　　第六高等学校文科甲類入学
大正 12（1923）年 3 月　　第六高等学校文科甲類卒業
　　同　年 4 月　　東京帝国大学法学部入学
大正 13（1924）年 ?月　　帝国学士院子爵夫人末松生子羅馬法奨励奨学品受品
大正 14（1925）年 ?月　　帝国学士院藤田男爵奨学費羅馬法学奨学費受費
大正 15（1926）年 3 月　　東京帝国大学法学部卒業（英吉利法選修）
　　同　年 4 月 14 日　　東京帝国大学法学部助手
　　同　年 ?月　　東京帝国大学大学院学生として帝国学士院藤田男爵奨学費羅馬法学奨学費受費
昭和 3（1928）年?月　　同
昭和 4（1929）年 3 月 25 日　　東京帝国大学法学部助教授
昭和 5（1930）年 3 月　　羅馬法講座担任
昭和 11（1936）年 3 月（当初出発予定月か。実際は 5 月、5 月 2 日神戸出帆（令和 6（2024）年 8 月 11 日一部修正））～昭和 13（1938）年 7 月 23 日
　　独国に留学
昭和 14（1939）年 12 月 28 日　　東京帝国大学法学部教授
昭和 17（1942）年 ?月　　東北帝国大学法文学部講師を嘱託される（昭和 17 年度というが、同学年度の学年暦は昭和 17 年 4 月～9 月である。なお、昭和 18 年 9 月 30 日には久保幡先生が同講師を嘱託され、冬休みの前後、仙台にて集中講義をしておられる由（『久保正幡略年譜・主要著作目録』参照）。）
昭和 21（1946）年　　昭和 21 年度東大法特別講義「ラテン語」でマグナ･カルタを教材とする
昭和 24（1949）年 11 月 23 日　　法制史学会代表理事（法制史学会 HP 中「法制史学会の歩み」参照。〈https://www.jalha.org/〉）
昭和 25（1950）年 1 月　　『楔形文字法の研究』により昭和 24 年度朝日文化賞を受賞
　　同　年 9 月 1 日　　逝去

2 著作目録

(1) 著書・訳書

（註: 原田教授の講義録の全国の大学における所蔵状況については、CiNii 中「原田慶吉」参照。〈https://cir.nii.ac.jp/〉）

昭和 8（1933）年

・『羅馬私法綱要』（第一分冊総則）（自己出版、発売所廣文社、昭和 8 年 4 月 19 日刊）
〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1179744/1/29〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

昭和 9（1934）年（令和 5（2023）年 2 月 26 日一部修正）

・『「法学提要希臘語義解」第三巻邦訳』（自己出版、印刷者: 五島林太郎、昭和 9 年 6 月 30 日刊）
〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1235723/1/54〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）
⇒〈http://tosyokan.my.coocan.jp/data/HARADA005.html〉（令和 7（2025）年 2 月 25 日追加）

・『「法学提要希臘語義解」第四巻邦訳』（自己出版、印刷者: 五島林太郎、昭和 9 年 6 月 30 日刊）
〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1235727/1/51〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）
⇒〈http://tosyokan.my.coocan.jp/data/HARADA006.html〉（令和 7（2025）年 2 月 25 日追加）

（参考）「原田慶吉電子文庫」（和田徹氏「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」所蔵）
〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm〉（平成 25 年 2 月 7 日追加）
⇒その後令和 5（2023）年 12 月 31 日閉館
⇒その後令和 6（2024）年 6 月 5 日（水、公開公表日）に「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」として再開。〈http://tosyokan.my.coocan.jp/〉（令和 7（2025）年 2 月 25 日追加）

昭和 10（1935）年

・『羅馬法制史序説』（自己出版、印刷所精興社、昭和 10 年 5 月 12 日刊）
〈https://dl.ndl.go.jp/pid/11214151/1/3〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

・『羅馬私法綱要』（総則・親族）（自己出版、印刷所精興社、昭和 10 年 6 月 29 日刊）
〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1237049/1/47〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

（参考: 昭和 11（1936）年 5 月～昭和 13（1938）年 7 月 23 日　独国に留学）

昭和 13（1938）年

・『羅馬法講義案』（債権法）（自己出版、印刷所精興社、昭和 13 年 11 月 20 日刊）
〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1057224/1/1〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

昭和 14（1939）年

・『羅馬法講義案』（物権法）（自己出版、印刷所精興社、昭和 14 年 1 月 9 日刊）
〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1097546/1/25〉

・『羅馬法講義案』（相続法）（自己出版、印刷者白井赫太郎、昭和 14 年 12 月 10 日刊）
〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1092920/1/25〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

（参考）昭和 22（1947）年（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

・『原田教授 ローマ法制史序説』（東大共同組合プリント部刊）（プランゲ文庫本に拠る。）
〈https://dl.ndl.go.jp/pid/11214151/1/2〉

昭和 24（1949）年

・『ローマ法』（有斐閣、上巻 昭和 24 年 4 月 24 日刊、下巻 昭和 24 年 5 月 20 日刊）

【書評】 太田秀通（1918～? ）『史学雑誌』第 59 編第 5 号（1949 年回顧と展望）（昭和 25 年刊）

吉田道也（1912～1992）『法政研究』第 18 巻第 2 号（昭和 25 年 12 月刊）〈https://irdb.nii.ac.jp/01211/0000211195〉

・『楔形文字法の研究』（弘文堂、昭和 24 年 6 月 15 日刊）
〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1152858/1/1〉

【書評】 久保正幡（1911～2010）『国家学会雑誌』第 63 巻第 6 号（昭和 24 年刊）

板倉勝正（1915～1992）『史学雑誌』第 59 編第 4 号（昭和 25 年刊）

太田秀通（1918～2000? ）『史学雑誌』第 59 編第 5 号（1949 年回顧と展望）（昭和 25 年刊）

村田数之亮（1900～1999）『西洋史学』V（昭和 25 年 5 月 25 日刊）

吉田道也（1912～1992）『法政研究』第 18 巻第 2 号（昭和 25 年 12 月刊）〈https://irdb.nii.ac.jp/01211/0000211195〉

久保正幡（1911～2010）・片岡輝夫（1924～2011）「原田慶吉『楔形文字法の研究』と比較法制史」『比較法雑誌』第 1 巻第 1 号（昭和 26 年刊）

田中周友（1900～1996）『世界名著大事典』第 2 巻（平凡社、昭 35 年 4 月 23 日刊）

三井哲夫（1931～2018）「旧刊再見 原田慶吉著「楔形文字法の研究」」『季刊実務民事法』3（昭和 58 年 10 月 25 日刊）148～154 頁（平成 25 年 7 月 29 日追加、令和 4 年 7 月 2 日没年追加）

昭和 25（1950）年

・『ローマ法の原理』（法原理叢書）（弘文堂、昭和 25 年 3 月 1 日刊）
〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1153011/1/3〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

【書評】吉田道也（1912～1992）『法政研究』第 18 巻第 2 号（昭和 25 年 12 月刊）〈https://irdb.nii.ac.jp/01211/0000211195〉

（参考）「原田慶吉電子文庫」（和田徹氏「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」所蔵）
〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm〉（平成 25 年 2 月 7 日追加）

⇒同サイトは令和 5（2023）年 12 月 31 日閉館（令和 6（2024）年 3 月 17 日追加）

⇒その後令和 6（2024）年 6 月 5 日（水、公開公表日）に「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」として再開された。〈http://tosyokan.my.coocan.jp/〉（令和 7（2025）年 2 月 25 日追加）

〈http://tosyokan.my.coocan.jp/〉

〈http://tosyokan.my.coocan.jp/data/HARADA001.html〉

・『ローマ法』（法政大学通信教育部、昭和 25 年 6 月 15 日刊）

・（監修訳）イェーリング『ローマ法の精神 第 1 巻（1）』（有斐閣、昭和 25 年 9 月 1 日刊）
〈https://dl.ndl.go.jp/pid/2996078/1/1〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

昭和 29（1954）年

・『ローマ法』（上・下合本初版五刷）（有斐閣、昭和 29 年 1 月 30 日刊）
・『日本民法典の史的素描』（石井良助編。創文社、昭和 29 年 6 月 30 日刊。石井良助「あとがき」（393-396 頁）あり。）

【書評】 人見康子（1927～1998）『法学研究』第 27 巻第 8 号（昭和 29 年 5 月 20 日刊）
福島正夫（1902～1989）『史学雑誌』第 64 編第 1 号（昭和 30 年刊）
加藤一郎（1922～2008）『世界名著大事典』第 5 巻（平凡社、昭和 35 年 11 月 29 日刊）（16 巻本: 第 3 巻、昭和 62 年 6 月 30 日刊）
水本浩（1920～1999）・平井一雄（1935～）編『日本民法学史』（信山社、平成 9 年 2 月 20 日刊）307 頁

昭和 30（1955）年

・『ローマ法－改訂－』（一冊本・六版改訂）（有斐閣、昭和 30 年 11 月 30 日刊。久保正幡（1911～2010）「改訂版に寄せて」あり。平成 8 年 11 月現在第 27 刷、『有斐閣図書目録』2003 年 2「有斐閣オンデマンド書目」90119-8８（原本: 10 版・昭和 43 年 3 月 20 日刊） 3,780 円） ⇒オンデマンド対応（平成 13（2001）年 8 月）
〈http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/4641901198〉

【書評】 平松紘（1942～2005）（清水英夫（1932～2013）・森泉章（1928～2007）・高窪貞人（1932～）編『法学基本書案内』（日本評論社、昭和 51 年 4 月 7 日刊））

昭和 42（1967）年

・（復刊）『楔形文字法の研究』（清水弘文堂書房、昭和 42 年 9 月 20 日刊）
・（復刊）『ローマ法の原理』（清水弘文堂書房、昭和 42 年 11 月 25 日刊）
〈https://dl.ndl.go.jp/pid/2996178/1/4〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

（2）論説

昭和 3（1928）～5（1930）年

・「厳格市民法に於ける羅馬家族法の研究」（1）～（8）完『国家学会雑誌』第 42 巻第 11 号 83-129 頁、第 12 号 96-126 頁; 第 43 巻第 1 号 61-92 頁、第 2 号 105-123 頁、第 5 号 87-130 頁、第 12 号 92-127 頁; 第 44 巻第 2 号 67-91 頁、第 4 号 70-86 頁（昭和 3～5 年刊）

昭和 5（1930）年

・「伊太利亜に於ける「羅馬法及東部法学校」の設立」『法学協会雑誌』第 48 巻第 5 号（昭和 5 年刊）121-128 頁

昭和 6（1931）年

・「古典世界に於ける生児遺棄の研究」『春木［一郎］先生還暦祝賀論文集』（有斐閣、昭和 6 年 1 月 11 日刊）321-361 頁

〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1177946/1/7〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

昭和 7（1932）年

・「古文書古記録の研究」『法学協会雑誌』第 50 巻第 9 号 126-135 頁、 第 11 号 97-120 頁、 第 12 号 119-152 頁（昭和 7 年刊）

・「偽ロード海法」『加藤［正治］先生還暦祝賀論文集』（有斐閣、昭和 7 年 1 月刊。加藤正治: 1871～1952）689-738 頁

〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1907255/1/1〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

昭和 8（1933）年

・「C. 6, 4, 3pr. （Iustinianus, a.529）の史的由来」『法学協会五十周年記念論文集』（法学協会発行、有斐閣発売、昭和 8 年 4 月刊）533-566 頁

〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1878594/1/1〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

昭和 9（1934）年

・「占有は権利か事実か―ビザンチン期の占有観念」『筧［克彦］教授還暦祝賀記念論文集』（有斐閣、昭和 9 年 4 月 17 日刊。筧克彦: 1872～1961）485-538 頁

〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1877166/1/1〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

・「プシケー・デスポゾントス」『法学協会雑誌』第 52 巻第 6 号（昭和 9 年刊）1-8 頁

昭和 10（1935）年

・「パピールス研究四題」『法学協会雑誌』第 53 巻第 11 号（昭和 10 年刊）109-136 頁

昭和 12（1937）年

・「日本民法物権編の史的素描」『中田［薫］先生還暦祝賀法制史論集』（岩波書店、昭和 12 年 3 月 1 日刊。中田薫: 1877～1967）251-314 頁 ⇒『日本民法典の史的素描』に収録

〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1222177/1/1〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

昭和 13（1938）年

・Der Verzicht auf den Patronat und das Gesetz Justinians in C. 6、 4、 3. Zeitschrift der Savigny-Stiftung für Rechtsgeschichte, Bd. LVIII, Rom. Abt., S.136-160. （昭和 13

年刊）

昭和 14（1939）年

・Zwei Quellenstellen zum Patronatrecht, Festschrift Paul Koschaker Bd. II , S.401-403.（昭和 14 年刊）

・Textkritische Studien zur adsignatio liberti orcini, ZSSt. Bd. LIX, Rom. Abt., S.498-508 （昭和 14 年刊）

・「日本民法総則編の史的素描」『法学協会雑誌』第 57 巻第 4 号 1-41 頁、第 6 号 20-52 頁、7 号 61-83 頁（昭和 14 年刊） ⇒『日本民法典の史的素描』に収録

昭和 15（1940）年

・「楔形文字法序説」『国家学会雑誌』第 54 巻第 2 号 1-25 頁、第 3 号 1-17 頁（昭和 15 年刊）

・「C. VII, 37, 2 （Zeno）と C. VIII, 25, 6 （Diocletianus）－羅馬物権法における公信の原則の比較法的研究－」『法学協会雑誌』第 58 巻第 9 号（昭和 1 5 年刊）1-42 頁

昭和 16（1941）年

・境野剛（? ～? ）・原田慶吉「羅馬法に於ける兵士の私法的地位」『法学協会雑誌』第 59 巻第 1 号 66-101 頁

昭和 17（1942）年

・「日本民法相続編の史的素描」『法学協会雑誌』第 60 巻第 1 号 1-18 頁、第 2 号 15-54 頁、第 3 号 25-45 頁、第 4 号 26-47 頁、第 5 号 70-114 頁、第 11 号 44-60 頁（昭和 17 年刊） ⇒『日本民法典の史的素描』に収録（終戦後の民法改正に対処して訂正）

・赤土正眞（しゃくど、1919～? ）・原田慶吉「羅馬法に於ける婦女の私法的地位」『法学協会雑誌』第 60 巻第 10 号 80-104 頁、第 11 号 61-82 頁（昭和 17 年刊）（令和 4 年 7 月 2 日一部訂正）

・「比較法制史より見たる楔形文字法の諸問題」『杉山［直治郎］教授還暦祝賀論文集』（岩波書店、昭和 17 年 11 月 4 日刊。杉山直治郎: 1878～1966）489-578 頁

〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1045296/1/1〉 （令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

昭和 18（1943）年

・「民法 709 条の成立する迄」『国家学会雑誌』第 57 巻第 4 号（昭和 18 年 4 月刊）41-61 頁、第 10 号 42-81 頁（昭和 18 年刊） ⇒『日本民法典の史的素描』に収録

（参考）「原田慶吉電子文庫」（和田徹氏「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」所蔵）

〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm〉 （平成 25 年 2 月 7 日追加）

⇒同サイトは令和 5（2023）年 12 月 31 日閉館（令和 6（2024）年 3 月 17 日追加）

⇒その後令和 6（2024）年 6 月 5 日（水、公開公表日）に「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」〈http://tosyokan.my.coocan.jp/〉として再開された。

〈http://tosyokan.my.coocan.jp/〉

〈http://tosyokan.my.coocan.jp/data/HARADA002.html〉

（令和 7（2025）年 2 月 25 日追加）

昭和 19（1944）年

・「ヂオクレチアーヌス帝の最高物価並びに賃銀報酬統制令の研究」『国家学会雑誌』第 58 巻第 8 号（昭和 19 年 8 月刊。ヂオクレチアーヌス帝: 245 頃～313 頃）1-31 頁; 第 60 巻第 9 号 28-58 頁（昭和 21 年 9 月刊）

昭和 21（1946）年

・「民法親族編の歴史的比較法的研究（1）」『国家学会雑誌』第 60 巻第 7 号（昭和 21 年 7 月刊）11-39 頁 ⇒『日本民法典の史的素描』に収録

昭和 22（1947）年

・「ローマ法の基本原理」『国家学会雑誌』第 61 巻第 2 号（昭和 22 年 8 月刊）1-25 頁
【書評】秋田穣二『法律新報』第 742 号（昭和 23 年 1 月 1 日刊）40-42 頁（平成 20 年 2 月 21 日追加）

・「マグナ・カルタの解説」『国家学会雑誌』第 61 巻第 4 号（昭和 22 年 10 月刊）35-44 頁、第 6 号（昭和 22 年 12 月刊）24-38 頁、第 62 巻第 1 号（昭和 23 年 1 月刊）31-43 頁、第 2 号（昭和 23 年 2 月刊）40-43 頁

・「続比較法制史より見たる楔形文字法の諸問題」『法学協会雑誌』第 65 巻第 5･6 号（昭和 22 年 12 月刊）46-62 頁、第 66 巻第 1 号（昭和 23 年 1 月刊）39-48 頁、第 2 号（昭和 23 年 8 月刊）41-56 頁

昭和 24（1949）年

・「ローマの文化とローマ法」『国家学会雑誌』第 63 巻第 6 号（昭和 24 年 6 月刊）1-24 頁

・「ローマ法における法規範の独立」『法学新報』第 56 巻第 8 号（昭和 24 年 8 月刊）16-33 頁

・「法の国ローマ」『法学協会雑誌』第 67 巻第 4 号（昭和 24 年 9 月刊）1-38 頁

・「基本的人権先史」『国家学会雑誌』第 63 巻第 7･8･9 号（昭和 24 年 12 月刊）1-38 頁

昭和 27（1952）年

・Some Comparative Studies in Cuneiform Law, IVRA, vol. III （1952）、 p.1-14.

・「シュメール民族の一刑事訴訟記録」『法制史研究 1（1951）』（昭和 27 年 7 月 30 日刊）45-46 頁（遺稿）

（参考）46 頁末尾に、原田教授より同稿を託された久保正幡先生（1911～2010）の下記〔附記〕がある。

「〔附記〕本稿は故原田教授の御遺稿で、教授がこれを執筆されたのは 1950（昭和 25）年 3 月から 8 月までの間のことである。教授は同年 9 月 1 日急逝されたが、教授が本稿をしかるべき雑誌に掲載して欲しいと私に託されたのは、8 月 29 日のことであった（久保正幡）。」

（3）邦訳

昭和 8（1933）年

・「Theophilus 法学提要希臘語義解・邦訳 第 1 巻」（1）～（5）完『法学協会雑誌』第 51 巻第 1 号 141-158 頁、第 3 号 161-174 頁、第 4 号 124-148 頁、第 6 号 100-110 頁、第 7 号 80-92 頁（昭和 8 年刊）

（参考）「原田慶吉電子文庫」（和田徹氏「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」所蔵）

〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm〉（平成 25 年 2 月 7 日追加）

⇒同サイトは令和 5（2023）年 12 月 31 日閉館（令和 6（2024）年 3 月 17 日追加）

⇒その後再開〈http://tosyokan.my.coocan.jp/harada.htm〉

⇒〈http://tosyokan.my.coocan.jp/data/HARADA003.html〉

（令和 6（2024）年 8 月 11 日追加）

昭和 8（1933）～9（1934）年

・「Theophilus 法学提要希臘語義解・邦訳 第 2 巻」（1）～（10）完『法学協会雑誌』第 51 巻第 8 号 72-98 頁、第 9 号 95-110 頁、第 10 号 69-92 頁（昭和 8 年刊）；第 52 巻（昭和 9 年刊）第 1 号 140-147 頁、第 3 号 86-95 頁、第 4 号 126-134 頁、第 6 号 99-108 頁、第 7 号 122-134 頁、第 8 号 135-139 頁、第 9 号 83-96 頁（昭和 9 年刊）

（参考）「原田慶吉電子文庫」（和田徹氏「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」所蔵）

〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm〉（平成 25 年 2 月 7 日追加）

⇒同サイトは令和 5（2023）年 12 月 31 日閉館（令和 6（2024）年 3 月 17 日追加）

⇒その後再開〈http://tosyokan.my.coocan.jp/harada.htm〉

⇒〈http://tosyokan.my.coocan.jp/data/HARADA004.html〉

（令和 6（2024）年 8 月 11 日追加）

昭和 9（1934）年（前掲「（1）著書・訳書」と重複。令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

・「法学提要希臘語義解」第 3 巻邦訳（自己出版、印刷者五島林太郎、昭和 9 年 6 月 30 日刊）

〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1235723/1/54〉

⇒〈http://tosyokan.my.coocan.jp/data/HARADA005.html〉

（令和 7（2025）年 2 月 25 日追加）

・「法学提要希臘語義解」第 4 巻邦訳（自己出版、印刷者五島林太郎、昭和 9 年 6 月 30 日刊）

〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1235727/1/51〉

⇒〈http://tosyokan.my.coocan.jp/data/HARADA006.html〉

（令和 7（2025）年 2 月 25 日追加）

昭和 21（1946）年

・「ハンムラピ法典邦訳」『法学協会雑誌』第 64 巻第 9･10 号（昭和 21 年 10 月刊。ハンムラピ：前 1792～前 1750、又は前 1728～前 1686）30-40 頁、第 11･12 号（同 12 月刊）33-57 頁 ⇒『楔形文字法の研究』に収録

昭和 23（1948）年

・「アッシリア法書邦訳」『法学新報』第 55 巻第 5 号 62-64 頁、第 6 号 55-64 頁、第 7 号 49-58 頁（昭和 23 年刊） ⇒『楔形文字法の研究』に収録

・「新バビロニア法典草案」『国家学会雑誌』第 62 巻第 5 号（5 月刊）42-44 頁（昭和 23 年刊） ⇒『楔形文字法の研究』に収録

（4）書評

昭和 5（1930）年

・「船田［享二］教授の『羅馬法』」『法律時報』第 2 巻第 10 号（昭和 5 年刊。船田享二: 1898～1970）

昭和 6（1931）年

・B. E. Corbett、 The Roman Law of Marriage『国家学会雑誌』第 45 巻第 8 号（昭和 6 年刊。B. E. Corbett: 1892～? ）121-135 頁

昭和 10（1935）年

・「岩田新『占有権論』」『法学協会雑誌』第 53 巻第 1 号（昭和 10 年刊。岩田新: 1882～1947）129-140 頁

昭和 14（1939）年

・「春木一郎『ユースティーニアーヌス帝学説彙纂プロータ』;
Klaus Mörsdorf, Die Rechtssprache des Codex Canonici 1937;
Bonner & Smith, The Administration of Justice from Homer to Aristotle 1938;
Acta congressus iuridici internationalis 5 vols. 1935～37;
Studi in memoria di Aldo Albertoni I, II, Diritto Romano e Byzantino 1935～37; III, Storia del Diritto Italiano e Diritti Stranieri 1938;
P. W. Duff, Personality in Roman Private Law 1938;
H. Kantrowicz, Studies in the Glossatores of the Roman Law 1938.」
『国家学会雑誌』第 53 巻第 7 号 108-109 頁、第 8 号 116-120 頁、第 9 号 151-153 頁（昭和 14 年刊。春木一郎: 1870～1944）

・「P. Koschaker, Die Krise des römischen Rechts und die romanistischen Rechtswissenschaft」『法学協会雑誌』第 57 巻第 12 号（昭和 14 年刊。P. Koschaker: 1879～1951）79-86 頁

昭和 15（1940）年

・「久保正幡訳『リブアリア法典』」『国家学会雑誌』第 54 巻第 11 号（昭和 15 年刊。久保正幡: 1911～2010）86-88 頁

昭和 16（1941）年

・「A. Scharff - E. Seidl, Einführung in die ägyptische Rechtsgeschichte bis zum Ende des Neuen Reiches I. Juristischer Teil von E.Seidl 1939.」『国家学会雑誌』第 55 巻第 10 号（昭和 16 年刊。A. Scharff: 1892～1950、E. Seidl: 1905～? ）96-112 頁

昭和 19（1944）年

・「船田享二著『羅馬私法提要』（初版昭和 16 年 再版昭和 17 年）・同訳『ガイウス法学提要』（昭和 18 年）・同著『法律思想史』（初版昭和 18 年 再版昭和 19 年）」『国家学会雑誌』第 58 巻第 5 号（昭和 19 年 5 月刊。船田享二: 1898～1970）48-54 頁

昭和 21（1946）年

・「船田享二『羅馬法』全五巻（昭和 18－19 年）」『国家学会雑誌』第 60 巻第 4 号（昭和 21 年 4 月刊。船田享二: 1898～1970）33-47 頁

（5）その他

大正 15（1926）年

・「厳格 ius civile ニ於ケル古代羅馬家族組織ノ研究」（大正 15 年 5 月脱稿、未刊）

昭和 6（1931）年

・「ローマ法」プラトン=アリストテレス学会編『ギリシア=ラテン講座』（第二部）ラテンⅡ（鉄塔書院〈後に岩波書店〉昭和 6 年 7 月 24 日刊。プラトン: 前 427 頃～前 347、アリストテレス: 前 387～前 322）153-173 頁

〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1236560/1/1〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

・「古典翻訳に悩み深し（ローマ法原田助教授談）」『帝国大学新聞』第 404 号（昭和 6 年 10 月 28 日刊）7 頁（『復刻版 帝国大学新聞』（第 5 巻、昭和 6 年。不二出版、昭和 59 年 6 月 10 日刊）通頁 305 頁）（平成 29 年 12 月 15 日追加）

・「わが愛読する書籍」（各氏依頼の一つとして掲載。「1、ギリシヤ、ラテン講座、2、ローマ法関係の書籍」）『帝国大学新聞』第 404 号（昭和 6 年 10 月 28 日刊）7 頁（『復刻版 帝国大学新聞』（第 5 巻、昭和 6 年。不二出版、昭和 59 年 6 月 10 日刊）通頁 305 頁）（平成 29 年 12 月 15 日追加）

昭和 9（1934）年

・「1933 年の古代法学界回顧」『国家学会雑誌』第 48 巻第 4 号（昭和 9 年刊）143-157 頁

昭和 11（1936）年

・「羅馬法」『法律学辞典』第四巻（岩波書店、昭和 11 年刊）2810-2819 頁

昭和 13（1938）年

・「伯林大学の思ひで」『緑会雑誌』第 10 号（東京帝国大学法学部、昭和 13 年刊）（未見。西川洋一教授「（資料）「原田慶吉 欧州発 久保正幡宛書簡」補遺」『国家学会雑誌』第 138 巻第 1/2 号（令和 7（2025）年 3 月刊）138 頁（注 9）に拠る。令和 7（2025）年 2 月 25 日追加）

・「民法総則編の史的由来〔法理研究会記事〕」『法学協会雑誌』第 56 巻第 12 号（昭和 13 年刊）

昭和 15（1940）年

・「昭和 14 年の法制史学界、二、羅馬法」『法学協会雑誌』第 58 巻第 1 号（昭和 15 年刊）90-92 頁

・吉田弥邦訳（やくに、?～1943）、原田慶吉校訂『伊太利民事訴訟法予備草案及報告』『司法資料』第 268 号（司法省調査部、昭和 15 年 7 月刊）（吉田弥邦: 明治 37（1904）年東京外語伊語本科卒、『イタリア』第 2 巻第 9 号「外語学生時代」（96-100 頁）参照）（令和 4 年 7 月 2 日一部補正）

〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1145228/1/1〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

昭和 17（1942）年

・「我が国に於ける外国法史学の発達」『東京帝国大学学術大鑑（法学部･経済学部）』（東京帝国大学、昭和 17 年 4 月 13 日刊）294-307 頁

〈https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1141764〉
（参考）「原田慶吉電子文庫」（和田徹氏「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」所蔵）
〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm〉（平成 25 年 2 月 7 日追加）
〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/data/HARADA007.html〉
⇒同サイトは令和 5（2023）年 12 月 31 日閉館（令和 6（2024）年 3 月 17 日追加）
⇒その後令和 6（2024）年 6 月 5 日（水、公開公表日）に「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」として再開された。〈http://tosyokan.my.coocan.jp/〉（令和 7（2025）年 2 月 25 日追加）
〈http://tosyokan.my.coocan.jp/〉
〈http://tosyokan.my.coocan.jp/data/HARADA007.html〉
【書評】金沢理康（1903～1948）「原田慶吉『我が国に於ける外国法史学の発達』及び久保正幡『ゲルマン法史の構想』：西洋法制史研究の一方法（東京帝国大学学術大観所收）」『社会経済史学』第 13 巻第 6 号（昭和 18 年 9 月 15 日刊）
〈http://sehs.ssoj.info/jp/contents/seh_j.html〉（平成 25 年 4 月 22 日一部補正）
・「ベートーヴェンの訴訟」『緑会雑誌』第 14 号（東京帝国大学法学部、昭和 17 年 9 月 5 日刊）32-36 頁（原田教授は昭和 17 年度東京帝国大学法学部緑会評議員で学芸部長。同誌巻頭の風景写真にあるお一人が原田先生かも。なお、同誌には、川島武宜（1909～1992）「ヴェニスの商人」61-66 頁、久保正幡「ゲーテと法制史」67-78 頁等が掲載されている。）（平成 27 年 10 月 23 日追加）

昭和 22（1947）年

・「編輯者の言葉」国家学会編『新憲法の研究』（有斐閣、昭和 22 年 10 月 1 日刊）（奥付に編輯代表者原田慶吉の名あり。）
〈https://dl.ndl.go.jp/pid/1045385/1/170〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

昭和 23（1948）年

・イエーリング『ローマ法の精神』第二巻邦訳（まえがき）」『季刊法律学』第 3 号（昭和 23 年 3 月刊。イエーリング: 1818～1892）（「昭和 22 年 9 月 原田、久保［正幡］記」とある。）
〈https://dl.ndl.go.jp/pid/2996078/1/6〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）
・「法制史叢書刊行のことば」中田薫『庄園の研究』（彰考書院、昭和 23 年 10 月 10 日刊。法制史叢書第一冊。中田薫: 1877～1967）巻頭（法制史叢書編集人として、石井良助（1907～1993）、久保正幡（1911～2010）とともに。8 月の日付あり。）
〈https://dl.ndl.go.jp/pid/2995843/1/3〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

昭和 25（1950）年

・「法史学 三・古代法」『法学研究の栞』上（東京大学学生文化指導会、昭和 25 年 7 月 16 日刊）300-310 頁
〈https://dl.ndl.go.jp/pid/2991121/1/11〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

（6）書簡集（令和 6（2024）年 8 月 11 日新設）

令和 6（2024）年

・辻泰一郎・西川洋一「（資料）原田慶吉 欧州発 久保正幡宛書簡（1936−1938 年）」『国家学会雑誌』第 137 巻第 5/6 号（令和 6（2024）年 6 月刊）103〜170 頁（令和 6（2024）年 8 月 11 日追加）

〈https://researchmap.jp/ynskw2001/misc/47087158〉

令和 7（2025）年

・西川洋一「(資料)「原田慶吉 欧州発 久保正幡宛書簡」補遺」『国家学会雑誌』第 138 巻第 1/2 号（令和 7（2025）年 3 月刊）139〜145 頁

（上記「(資料）原田慶吉 欧州発 久保正幡宛書簡（1936−1938 年)」発表後、原田慶吉教授と同時期に欧州に留学し同教授の一年前に帰国した矢部貞治教授（1902〜1967）宛の原田教授欧州発書簡数点が矢部貞治関係文書（政策研究大学院大学図書館所蔵）に含まれており内容的に久保教授宛書簡を補完することが判明したことから作成されし由。）（令和 7（2025）年 2 月 25 日追加）

（7）原田慶吉教授試験問題（令和 6（2024）年 6 月 7 日新設、追加）

（前記）
＊帝大プリント聯盟編『最新 東京帝国大学 法学部試験問題集―昭和拾年三月―昭和拾五年六月―』（帝大プリント聯盟、昭和 15（1940）年 12 月 20 日刊）85 頁に拠る。令和 6（2024）年 3 月 19 日沓抜憲氏より御教示に与りました。同氏に厚く御礼申し上げます。
＊戦前期の『法律時報』毎年 5 月号には、「資料」として「東京・京都・東北・九州各帝大法学部・法文学部試験問題」が掲載されていることから、ここでは、その「羅馬法」に基づき昭和 10（1935）年～昭和 15（1940）年分については確認した。
＊ただ、原田教授は、「昭和 11（1936）年 3 月～昭和 13（1938）年 7 月 23 日　独国に留学」であるので、この間何故に原田教授出題の試験問題が登載されているのかは不明。要調査。（令和 6（2024）年 6 月 7 日追加）

【羅馬法】 原田先生

十七年三月（法時第 14 巻 5 号「羅馬法」不記載）
十六年三月（法時第 13 巻 5 号「羅馬法」不記載）
十五年三月（法時第 12 巻 5 号「羅馬法」不記載）
一、 litis contestatio 私法關係に及ぼす效果。
二、簡單なる説明を加へよ。
(一) intercessio
(二) stipulatio の無因性。
(三) in bonis esse
十四年六月（前年度追試験分か。法時第 11 巻 5 号「羅馬法」には不記載）
一、 res mancip と res nec mancipi.
二、誠意行為と嚴正行為。
十四年三月（法時第 11 巻 5 号 82 頁「羅馬法」記載あり。）
一、 mancipatio と in iure cessio との異同。
二、羅馬法に於ける不法行為の基礎思想。
十三年三月（法時第 10 巻 5 号 67 頁「羅馬法」記載あり。）
一、賣主の瑕疵擔保責任。
二、地上権。
十二年三月（法時第 9 巻 5 号 99 頁「羅馬法」記載あり。）
一、時效制度について。
二、 locatio conductio について。
十一年三月（法時第 8 巻 5 号 58 頁「羅馬法」記載あり。）
一、賣立[ママ、主]擔保主義の沿革。（上記法時で修正）
二、traditio に就いて。
三、Pia[ママ、pia] causa に就いて。

十年三月（法時第 7 巻 5 号 71 頁「羅馬法」記載あり。）

一、儒帝法に於ける融合整理現象。

二、 Comodatum, stipulatio, emptio, venditio, mutuum, depositum は如何なる種類の Contractus に屬するか。

（8）原田慶吉教授関連著作

・『東京帝国大学一覧』、『東京大学一覧』（各年版。東京帝国大学、東京大学。近代デジタルライブラリー〈http://kindai.ndl.go.jp/〉にあり。⇒〈https://dl.ndl.go.jp/〉）

昭和 4（1929）年

・中川善之助（1897～1975）「昭和四年回顧 法学界」『経済往来』第 4 巻第 12 号（昭和 4 年回顧号、日本評論社、昭和 4 年 12 月 1 日刊）（169 頁）（平成 20 年 3 月 19 日追加）

昭和 5（1930）年

・藤原毅（? ～? ）「東大法学部を去る人とその後継者」中「原田慶吉助教授」『法律春秋』第 5 巻第 5 号（昭和 5 年 5 月 1 日刊）（110 頁）（平成 20 年 3 月 10 日修正）

昭和 7（1932）年

・「大学教授室」『時事新報』昭和 7 年 1 月 8 日～1 月 16 日（原田教授関係記載あり。）（平成 22 年 10 月 15 日追加）

（神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ「新聞記事文庫」：人物伝記（5-002））

〈http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=10086840&TYPE=HTML_FILE&POS=1〉

昭和 21（1946）年

・三ヶ月章（1921～2010）「契約法に於ける形式主義とその崩壊の史的研究（1～4・完）」『法学協会雑誌』第 64 巻第 2、5、6、11-12 号（昭和 21 年 2、5、6、12 月刊。後に、三ヶ月章『民事訴訟法研究』第 5 巻（有斐閣、昭和 47 年 8 月 20 日刊）327-381 頁に付録として再録。なお、同書「あとがき」中 390-392 頁参照）

昭和 23（1948）年

・久保正幡（1911～2010）「西洋法制史学界の展望」『人文』（文部省人文科学委員会編）第 2 巻第 1 号（昭和 23 年刊）

昭和 24（1949）年

・久保正幡（1911～2010）「西洋法制史」『日本の人文科学―回顧と展望―人文特輯号』（日本人文学会、昭和 24 年刊）

昭和 25（1950）年

・訃報記事『朝日新聞縮刷版昭和 25 年 9～12 月』7 頁（昭和 25 年 9 月 3 日付）

・久保正幡（1911～2010）「原田慶吉教授の死」『日本読書新聞』第 560 号（9 月 20 日刊）（『縮刷版 日本読書新聞』第 6 巻〈不二出版、昭和 62 年 9 月 10 日刊〉248 頁）

・原田教授はなぜ自殺した？（『朝日新聞』昭和 25 年 9 月 21 日付）『新聞月鑑』第 21 号（昭和 25 年 10 月 20 日刊、「大宅文庫目録」より検出、65 頁）

（参考）木庭顕（1951～）『新版 ローマ法案内 現代の法律家のために』（勁草書房、平成 29 年 10 月 30 日刊）7 頁（平成 30 年 6 月 10 日追加）

・『朝日新聞』昭和 25 年 9 月 24 日朝刊「天声人語」（朝日新聞「聞蔵Ⅱビジュアル」〈http://database.asahi.com/library2/〉で検索）（平成 22 年 6 月 6 日追加）

・矢田一男（1904～1966）「日本におけるローマ法学界の近況―原田教授の学風を偲んで―」『法律時報』第 22 巻第 12 号（昭和 25 年刊）
・「故原田慶吉教授の業績」『法学展望 法律学体系月報 ―No.5― 』（法律学体系 学理論篇 六回配本、昭和 25 年 12 月 15 日刊）3、4 頁（平成 19 年 8 月 1 日追加、西村重雄教授（1943～）の御教示による。）（平成 19 年 8 月 1 日追加）

昭和 26（1951）年

・MASAHATA KUBO, IN MEMORIAM － KEIKICHI HARADA、 IVRA、 vol. II（1951）, p.472-474.（Wichtige Werke, p.473-474. 独語表記による著作目録。久保正幡: 1911～2010）
・久保正幡（1911～2010）・片岡輝夫（1924～2011）「原田慶吉『楔形文字法の研究』と比較法制史」『比較法雑誌』第 1 巻第 1 号（昭和 26 年刊）
・「無法録」『法律新報』第 758 号（昭和 26 年 1 月 1 日刊）82 頁（原田教授の追悼記事）（平成 20 年 2 月 21 日追加）

昭和 27（1952）年

・川島武宜（1909～1992）訳『エールリッヒ 法社会学の基礎理論』第一分冊（有斐閣、昭和 27 年 11 月 15 日刊）「はしがき」5 頁（平成 21 年 2 月 4 日追加）

昭和 28（1953）年

・片岡輝夫（1924～2011）「原田慶吉先生の逝去を悼みて」『法制史研究 3〈1952〉』（昭和 28 年 11 月 20 日刊）

昭和 30（1955）年

・三浦一郎（1914～2006）「原田亨一先生のこと」『歴史研究』第 25 号（茨城大学歴史研究会、昭和 30 年 4 月 1 日刊）37～40 頁（原田亨一: 原田教授令兄、きょういち、武蔵高校教授、1897～1938）（平成 30 年 6 月 10 日追加）
「ROSE リポジトリいばらき」（茨城大学学術情報リポジトリ）〈http://ir.lib.ibaraki.ac.jp/bitstream/10109/8034/1/CSI2011_1953.pdf〉

昭和 31（1956）年

・久保正幡（1911～2010）・片岡輝夫（1924～2011）（対談）「原田慶吉先生を偲ぶ―日本の法律学を築いた人々（14）―」『書斎の窓』第 33 号（昭和 31 年 3 月刊）（原田教授の照影あり。ただし、同第 269 号（創業 100 周年記念特集、昭和 52 年 1 月 1 日刊）には未収録。）
（参考）木庭顕（1951～）『新版 ローマ法案内 現代の法律家のために』（勁草書房、平成 29 年 10 月 30 日刊）7 頁（平成 30 年 6 月 10 日追加）
・船田享二（1898～1970）「楔形文字法」『世界大百科事典』第 8 巻（平凡社、昭和 31 年 6 月 25 日刊）

昭和 32（1957）年

・南原繁（1889～1974）「原田慶吉教授を悼む―告別式における追悼の辞―（1950.9.4）」『文化と国家』（東京大学出版会、昭和 32 年 5 月 30 日刊（後、UP 選書『文化と国家』上・下（東京大学出版会、昭和 43 年 6 月 10 日刊）及び『南原繁著作集』第 7 巻（岩波書店、昭和 48 年 2 月 18 日刊）に再録。）

昭和 33（1958）年

・船田享二（1898～1970）「原田慶吉」『世界大百科事典』第 23 巻（平凡社、昭和 33 年 4 月 25 日刊（387 頁）。1981 年版（第 25 巻、昭和 56 年 4 月 20 日刊、98 頁）まであり。）

昭和 35（1960）年

・田中周友（1900～1996）「原田慶吉『楔形文字法の研究』」『世界名著大辞典』第 2 巻（平凡社、昭和 35 年 4 月 28 日刊）

昭和 36（1961）年

・田中耕太郎（1890～1974）『私の履歴書』（春秋社、昭和 36 年 10 月 5 日刊）32、35 頁（20、21 齣）〈https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2934949〉（田中耕太郎に大正 4～5（1915～1916）年頃京大の羅馬法教授就任の話のありし件）

（参考）後掲末川博（1892～1977）・我妻栄（1897～1973）「対談 日本の法学者を語る・蒲郡対談・連載第 4 回」『法学セミナー』第 179 号（昭和 46 年 1 月 1 日刊）67～69 頁（我妻博士は、大正 3、4（1914、1915）年頃義兄の孫田秀春博士（1886～1976）に京大羅馬法教授の後継者の話があったことを回想しておられる。ただし、孫田秀春『私の一生』（高文堂出版社、昭和 49 年 8 月 25 日刊）には記載なし。）（令和 4（2022）年 7 月 2 日追加）

昭和 37（1962）年

・日本学士院『日本学士院八十年史』（本編、資料編二）（日本学士院、昭和 37 年 3 月刊）

昭和 40（1965）年

・佐藤篤士（1934～2006）「日本におけるローマ法学の役割―日本におけるローマ法研究の歩みにたいする一つの反省―」『早稲田法学』第 40 巻第 1 号（昭和 40 年 1 月 20 日刊）53-99 頁（佐藤『古代ローマ法の研究』（敬文堂出版部、昭和 50 年 4 月 25 日刊）に、第 1 章「日本におけるローマ法学の発達―日本におけるローマ法研究の歩みにたいする一反省―」と改題、補正して再録（1-46 頁））

〈 http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/bitstream/2065/1829/1/A03890546-00-0400100 53.pdf#search='%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%9E%E6%B3%95%E5%AD%A6%E3%81%AE%E5%BD%B9%E5%89%B2'〉（平成 25 年 2 月 7 日追加）

（参考）わが国における法史学の歩み研究会（代表 岩野英夫（1944～））（岩野英夫、原田俊彦、須藤忠臣、藤野奈津子、足立清人、西村隆誉志、吉井蒼生夫）「聞き書き・わが国における法史学の歩み（9）―佐藤篤士先生の法史学を語る」『同志社法学』第 64 巻第 2 号（通巻第 355 号、平成 24 年 7 月 31 日刊）297～402 頁中藤野奈津子氏発言 388～389 頁（平成 25 年 5 月 20 日追加）

・清水英夫（1922～2013）『東京大学法学部』（講談社 ミリオン・ブックス 215、昭和 40 年 7 月刊）

昭和 42（1967）年

・仁井田陞（1904～1966）「5 研究三十五年の回顧」『中国の法と社会と歴史』（岩波書店、昭和 42 年 6 月 21 日刊）154 頁（ただし春木一郎博士回顧分）（令和 3 年 1 月 20 日追加）

昭和 43（1968）年

・仁井田陞（1904～1966）「Ⅳ 研究回想」『東洋とは何か』（東京大学出版会、昭和 43 年 9 月 10 日刊）273 頁（初出: 『中央公論』昭和 39 年 7 月号 83 頁）（令和 3 年 1 月 20 日追加）

・杉勇（1904～1989）『楔形文字入門』（中公新書、昭和 43 年 9 月 25 日刊。あとがき）（復刊: 講談社学術文庫、平成 18 年 1 月 10 日刊）

昭和 44（1969）年

・小林宏行『六高ものがたり』（日本文教出版、昭和 44 年 5 月 20 日刊）（「オンケル原田」172、173 頁。令兄原田亨一武蔵高校教授（きょういち、1897～1938）、原田玉吉氏のこと等。）（平成 20 年 8 月 15 日追加）

（参考）武蔵墨跡展: 〈http://www1.ocn.ne.jp/～sirakigi/bokuseki.html#top01〉

昭和 45（1970）年

・佐藤篤士（1934～2006）「原田慶吉」『ジャポニカ』第 18 巻（小学館、昭和 45 年 12 月 10 日刊。新版: 昭和 56 年 4 月 20 日刊（331 頁））

昭和 46（1971）年

・末川博（1892～1977）・我妻栄（1897～1973）「対談日本の法学者を語る･蒲郡対談第 4 回」『法学セミナー』第 179 号（昭和 46 年 1 月刊）67-69 頁（「昭和 36（1961）年」の項参照。）

昭和 47（1972）年

・福島正夫（1902～1989）「（座談会）法と歴史と社会と ―福島正夫教授の学問と業績― 第 1 回－第 5 回」『法学セミナー』第 192、194-197 号（昭和 47 年 1-5 月号）中の第 4 回第 196 号（4 月号）72 頁（「原田慶吉先生のこと」、同教授の照影あり。後、『福島正夫著作集』第 7 巻（勁草書房、平成 5 年 12 月 20 日刊）に再録。）

・吉野悟（1920～2012）『ローマ所有権法史論』（有斐閣、昭和 47 年 5 月 30 日刊）あとがき（326 頁）（平成 20 年 12 月 15 日追加）

昭和 48（1973）年

・野田良之（1912～1985）『南原繁著作集』第 7 巻（岩波書店、昭和 48 年 2 月 18 日刊）解説（514 頁、上記「昭和 32 年 南原繁」の項参照。南原繁: 1889～1974）

昭和 49（1974）年

・矢部貞治（1902～1967）『矢部貞治日記』（銀杏の巻、自昭和 12 年 5 月 18 日至昭和 20 年 12 月 31 日）（読売新聞社、昭和 49 年 5 月 15 日刊）9、40、43、81、83、110、128、132、135、143、163、192、197、198、218、258、262、275、310、359、360、406、469、501、533、539、540、541、573、575、584、587、588、589、809、811 頁（令和 5（2023）年 1 月 7 日一部補正）

・矢部貞治（1902～1967）『矢部貞治日記』（欅の巻、自昭和 21 年 1 月 1 日至昭和 29 年 12 月 31 日）（読売新聞社、昭和 49 年 8 月 25 日刊）448、449 頁（原田教授逝去の件）なお、『矢部貞治日記 ：欧米留学時代』（矢部尭男、平成元（1989）年 6 月刊）は未見。（令和 5（2023）年 1 月 7 日追加）

昭和 50（1975）年

・世良晃志郎（1917～1989）「ウェーバーとの出会い」『法学セミナー』昭和 50（1975）年 8 月号（第 242 号）⇒『法学者・法律家たちの八月十五日』（日本評論社、令和 3（2021）年 7 月 15 日刊）43～48 頁に再録（ウエーバー: 1864～1920）（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

昭和 54（1979）年

・佐藤篤士（1934～2006）「私のローマ法研究」『比較法と外国法 早稲田大学比較法研究所創立 20 周年記念講演集』（早稲田大学比較法研究所、昭和 54 年 3 月 20 日刊）121～131 頁（平成 20 年 8 月 15 日追加）

・長尾龍一（1938～）「原田慶吉」『日本人名大辞典・現代』（平凡社、昭和 54 年 7 月 10 日刊）

昭和 56（1981）年

・世良晃志郎（1917～1989）「私の学問遍歴 ― ミッタイス、マルクス、ウエーバー ―」『福大史学』（福島大学）第 31 号・特集号（昭和 56 年 2 月刊。ミッタイス: 1889～1952、マルクス: 1818～1883、ウエーバー: 1864～1920）5、6 頁

昭和 58（1983）年

・三ヶ月章（1921～2010）「ローマ法の学生論文を書いた頃のこと」広中俊雄（1926～2014）・五十嵐清（1925～2015）編『法律論文の考え方・書き方』（有斐閣、昭和 58 年 4 月 30 日刊。後に、三ヶ月章『民事訴訟法研究』第 9 巻（有斐閣、昭和 59 年 4 月 30 日刊）に再録。）

昭和 60（1985）年

・世良晃志郎（1917～1989）「私の学生時代」『法学』第 49 巻第 1 号（昭和 60 年 4 月刊）71～73 頁

昭和 61（1986）年

・東京大学百年史編集委員会編『東京大学百年史 部局史 1』（東京大学出版会、昭和 61 年 3 月 1 日刊）189、195、223、224、230、231、235、241、247、264、266 頁

・片岡輝夫（1924～2011）他著『古代ローマ法研究と歴史諸科学』（創文社、昭和 61 年 9 月刊）（令和 4（2022）年 7 月 2 日追加）

・団藤重光（1913～2012）『わが心の旅路』（有斐閣、昭和 61 年 12 月 15 日刊）74、96、134 頁（うち、74、96 頁に原田教授の照影あり。）

昭和 62（1987）年

・岩野英夫（1944～）「わが国における法史学の歩み（1873－1945）―法制史関連科目担任者の変遷―」『同志社法学』第 39 巻第 1・2 号（昭和 62 年 7 月刊）〈http://ci.nii.ac.jp/naid/110000588862〉（平成 25 年 2 月 7 日追加）

昭和 63（1988）年

・佐藤篤士（1934～2006）「原田慶吉」『日本大百科全書』第 19 巻（小学館、昭和 63 年 1 月 1 日刊（第 2 版、平成 14 年 1 月 20 日刊（109 頁））

平成元（1989）年

・『矢部貞治日記 欧米留学時代』（矢部尭男、平成元（1989）年 6 月刊。矢部貞治: 1902

～1967）（未見。令和 5（2023）年 1 月 7 日追加）
・丸山真男（1914～1996）・福田歓一（1923～2007）編『聞き書 南原繁回顧録』（東京大学出版会、平成元年 9 月 20 日刊。南原繁: 1889～1974）219、281、282 頁
〈https://www.utp.or.jp/book/b300153.html〉
平成 2（1990）年
・滋賀秀三（1921～2008）「中国法制史と私―老兵の告白―」『中国―社会と文化』第 5 号（東大中国学会、平成 2 年 6 月?日刊。後に、滋賀秀三『続・清代中国の法と裁判』（創文社、平成 21 年 2 月 25 日刊）209～232 頁に収録。）（原田教授関係: 209、211、212、224 頁）（平成 21 年 5 月 5 日追加）
平成 3（1991）年
・『法学』第 54 巻第 6 号（菅原菊志教授退官記念号、平成 3 年刊。菅原菊志: 1928～2000）54 頁（原田慶吉、伊沢孝平（1901～1975）、西本寛一（1901～1971）、石本雅男（1902～2003）各教授は六高同期との記載あり。なお、久保正幡先生の御教示によれば、原田教授は吉川幸次郎博士（1904～1980）と神戸一中同期との由。）
平成 5（1993）年
・横田地弘（1920～2009）「岡義武教授点描」『岡義武著作集第 8 巻付録』（岩波書店、平成 5 年 5 月 6 日刊。岡義武: 1902～1990）57 頁
・鈴木竹雄（1905～1995）『幾山河 商法学者の思い出』（有斐閣、平成 5 年 5 月 23 日刊）182、191 頁
・福島正夫（1906～1989）発言「原田慶吉先生のこと」（「法と歴史と社会と［座談会］福島正夫教授の学問と業績」『福島正夫著作集』第 7 巻（勁草書房、平成 5（1993）年 12 月 20 日刊）106～107 頁。初出: 『法学セミナー』192、194-197、日本評論社、昭和 47（1972）年 1 ～5 月刊）（令和 6（2024）年 8 月 11 日追加）
平成 8（1996）年
・川野重任（1911～2010）「山水亦有古今―直子のことなど」『音容去来』（大明堂、平成 8 年 11 月 10 日刊）80～87 頁（原田教授の件: 81～82 頁。初出: 『七高弓友だより』第 9 号（昭和 61（1986）年 7 月 15 日刊））（平成 28 年 10 月 8 日追加）
平成 9（1997）年
・篠原一（1925～2015）・三谷太一郎（1936～）編『岡義武ロンドン日記 1936－1937』（岩波書店、平成 9 年 6 月 20 日刊。岡義武: 1902～1990）巻頭に原田教授の照影あり。2、19、27、28、30、31、162、308、329、333 頁
・石村善助（1924～2006）「法社会学とともに五十年」（日本法社会学会 HP〈http://jasl.info/〉平成 9 年記事か。）（平成 25 年 2 月 7 日追加）
〈http://jasl.info/modules/about/index.php?content_id=21〉
平成 10（1998）年
・久保正幡（1911～2010）『久保正幡略年譜・主要著作目録』（製作・洋販、平成 10 年 10 月 20 日刊。「付録写真集」に原田教授の遺影あり。）
平成 12（2000）年
・「早大事件・原田教授の死」日本近代史研究会『画報 現代史 3』（日本図書センター、

平成 12 年 1 月 25 日刊）608、609 頁（平成 19 年 12 月 15 日追加）

平成 13（2001）年

・長尾龍一（1938～）「原田慶吉」『日本近現代人名辞典』（吉川弘文館、平成 13 年 7 月 20 日刊）856 頁

・久留都茂子（ひさとめ、1927～2023.7.4）『心の一隅に棲む異邦人』（信山社、平成 13 年 11 月 30 日刊）45 頁（「13 法律学を学び始めた頃」43～45 頁）（平成 20 年 10 月 6 日追加）

・香川達夫（1926～2022）『老松―ある刑法学者の軌跡―』（成文堂、平成 13 年 12 月 25 日刊）37 頁（平成 21 年 7 月 16 日追加）

平成 14（2002）年

・研究代表者岩野英夫（1944～）『法学教育における法史学の存在価値―わが国における法史学の成立と展開との関連で―』 平成 11 年度―平成 13 年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告（平成 14 年 3 月刊）（註: これには、前記岩野英夫「わが国における法史学の歩み（1873―1945）―法制史関連科目担任者の変遷―」（註: 昭和 62 年 7 月刊）の修正版が収録されている。）

〈http://ci.nii.ac.jp/naid/110000588862〉（平成 25 年 2 月 7 日追加）

平成 16（2004）年

・西村重雄（1943～）「（追想）塙先生の『名言』」塙浩（塙陽子編）『コクリコの歌』（信山社、平成 16 年 4 月 16 日刊）164 頁

平成 17（2005）年

・「民法学者の歩み：星野英一先生に聞く③」（聞き手 内田貴（1954～）、大村敦志（1958～））『書斎の窓』第 545 号（平成 17 年 6 月 1 日刊。星野英一: 1926～2012）3 頁、「同 ④」同第 546 号（平成 17 年 8 月 1 日刊）7 頁（平成 18 年 6 月 11 日追加）⇒後に星野英一（1926～2012）『ときの流れを超えて』（有斐閣、平成 18 年 9 月 10 日刊）に再録（38、46、48、61、155、156、206 頁）（平成 19 年 12 月 23 日追加、平成 19 年 12 月 29 日修正）

・三ヶ月章（1921～2010）『一法学徒の歩み』（有斐閣、平成 17 年 6 月 20 日刊）9 頁（平成 17 年 10 月 18 日追加）

平成 18（2006）年

・星野英一（1926～2012）『ときの流れを超えて』（有斐閣、平成 18 年 9 月 10 日刊）38、46、48、61、155、156、206 頁（平成 19 年 12 月 23 日追加、平成 19 年 12 月 29 日修正）

平成 20（2008）年

・菊地正憲（1965～）「有名東大教授「生活苦」自殺の衝撃―【総力特集】昭和＆平成「貧乏」13 の怪事件簿」『新潮 45』9 月号（平成 20 年 9 月 1 日刊）34、35 頁（平成 20 年 8 月 19 日追加）

・小田滋（1924～）「〔特別講演〕法が生まれるとき―国際法の場合―」林信夫（1948～）・新田一郎（1960～）編『法が生まれるとき』（創文社、平成 20 年 10 月 20 日刊）130 頁（平成 20 年 11 月 16 日追加）

平成 22（2010）年

・髙坂盛彦（1937～）『国鉄を企業にした男 片岡謌郎伝』（中央公論新社、平成 22 年 12

月 20 日刊。片岡謌郎: 1894～1966）55、295、297、302 頁（平成 25 年 7 月 7 日追加）

平成 27（2015）年

・五十嵐清（1925～2015）（山田卓生・山田八千子・小川浩三・内田貴編）『ある比較法学者の歩いた道―五十嵐清先生に聞く』（信山社、平成 27 年 4 月 20 日刊）72～74 頁（平成 27 年 7 月 16 日追加）

平成 29（2017）年

・木庭顕（1951～）『新版 ローマ法案内　現代の法律家のために』（勁草書房、平成 29 年 10 月 30 日刊）5～7 頁（平成 30 年 10 月 30 日刊）

平成 30（2018）年

・内田貴（1954～）『法学の誕生 近代日本にとって「法」とは何であったのか』（筑摩書房、平成 30 年 3 月 30 日刊）（平成 30 年 6 月 10 日追加）

令和 3（2021）年

・警察政策学会資料第 115 号 警察政策学会警察史研究部会編『近代警察史の諸問題―川路大警視研究を中心に―（第二輯）―武藤誠氏・加藤晶氏・福永英男氏・戸髙公徳氏追悼記念論集―【下冊】』（警察政策学会、令和 3（2021）年 5 月 8 日刊）に下記三篇を収録。同学会 HP〈http://www.asss.jp/〉⇒〈http://www.asss.jp/report/%E8%AD%A6%E5%AF%9F%E6%94%BF%E7%AD%96%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E8%B3%87%E6%96%99115.pdf〉にアップ済。（令和 4 年 7 月 2 日追加）

・「久保正幡先生述「中田薫先生の思い出と法制史学会の回顧」メモ（要旨・未定稿）」（久保正幡先生、中田薫博士、原田慶吉教授各御遺影掲載）

・松村勝二郎「〈学びつつ老いる〉―久保正幡先生の思い出―」

・「中田薫博士関係資料抄―久保正幡先生御講演の参考として―」

・世良晃志郎（1917～1989）「ウェーバーとの出会い」『法学者・法律家たちの八月十五日』（日本評論社、令和 3（2021）年 7 月 15 日刊）43～48 頁（初出: 前掲『法学セミナー』昭和 50（1975）年 8 月号（第 242 号））〈https://www.nippyo.co.jp/shop/book/8587.html〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

令和 4（2022）年

・『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録―【参考篇】【附篇】―ローマ法・法制史学者著作目録選（第十五輯）―』（CD 版、令和 4（2022）年 4 月 1 日刊）（令和 4（2022）年 7 月 2 日追加）
〈https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I032127903〉
〈https://cir.nii.ac.jp/crid/1130010676870877056〉

令和 5（2023）年

・北康宏（1968～）『中田薫』（人物叢書、吉川弘文館、令和 5（2023）年 8 月 1 日刊）140～141、220、224、253、289～291、341（原田春子著の件）、343 頁
〈http://www.yoshikawa-k.co.jp/book/b626819.html〉（令和 5（2023）年 7 月 18 日追加）

令和 6（2024）年

・『CD 版 上山安敏先生・柴田光蔵先生・西村稔先生・宮崎道三郎博士・池辺義象氏・小

林宏先生・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士略年譜・著作目録 附録: 「日本ローマ法・法制史学者等略年譜・著作目録・追悼辞」掲載資料抄 （追補）中田薫博士・瀧川政次郎博士・三浦周行博士・牧健二博士各関係資料抄 ―ローマ法・法制史学者著作目録選（第十六輯）―』（CD 版、令和 6（2024）年 1 月 1 日刊）
〈https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033346841〉（令和 6（2024）年 3 月 17 日追加）
・辻泰一郎・西川洋一「資料 原田慶吉 欧州発 久保正幡宛書簡（1936−1938 年）」『国家学会雑誌』第 137 巻第 5/6 号（令和 6（2024）年 6 月刊）103～170 頁（重複。令和 6（2024）年 8 月 11 日追加）
・中田薫（1877～1967） 北康宏（1968～）『編・解説『日本法制史講義 公法篇』（講談社学術文庫、令和 6（2024）年 7 月 9 日刊）
〈https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000395524〉（令和 6（2024）年 8 月 11 日追加）
令和 7（2025）年
・西川洋一「(資料)「原田慶吉 欧州発 久保正幡宛書簡」補遺」『国家学会雑誌』第 138 巻第 1/2 号（令和 7（2025）年 3 月刊）139～145 頁（重複。令和 7（2025）年 2 月 25 日追加）

（9）原田慶吉教授関連報告（令和 6（2024）年 6 月 7 日新設、追加）

令和 6（2024）年

・（報告）宮坂渉（1977～）「戦間期から戦時期にかけての古代ローマ法研究――田中周友と原田慶吉」（令和 6（2024）年 4 月 20 日（土）法制史学会東京部会第 287 回例会。貴重な資料あり。）（令和 6（2024）年 6 月 7 日追加）

（参考）

〈 https://www.jalha.org/tokyo/%e6%b3%95%e5%88%b6%e5%8f%b2%e5%ad%a6%e4%bc%9a%e6%9d%b1%e4%ba%ac%e9%83%a8%e4%bc%9a%e7%ac%ac287%e5%9b%9e%e4%be%8b%e4%bc%9a%e3%81%ae%e3%81%94%e6%a1%88%e5%86%85/〉

法制史学会 東京部会 法制史学会東京部会第 287 回例会のご案内（2024 年 3 月 14 日）

（中略）

〈日時〉2024 年 4 月 20 日（土）13:30～（17:30 終了予定）

〈場所〉①実地会場　　：中央大学茗荷谷キャンパス３Ｅ０９教室(予定)

（東京都文京区大塚 1-4-1（東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅徒歩 1 分）

〈https://www.chuo-u.ac.jp/access/myogadani/〉

②オンライン　：ウェブ会議システム Webex (Cisco Webex Meetings)を利用

【ミニ・シンポジウム「日本における法史研究の歴史（２）：1920-1945/50 年」準備会】

13:30-13:40　趣旨説明（田口正樹：東京大学法学政治学研究科教授）

13:40-14:15　「戦時期の日本法制史学と「固有法」の諸相」（小石川裕介：関西大学法学部准教授）

14:15-14:50　「黎明期における東洋法制史の担い手――内田智雄を例として」(鈴木秀光：京都大学法学研究科教授）

14:50-15:05　休憩

15:05-15:40　「戦間期から戦時期にかけての古代ローマ法研究――田中周友と原田慶吉」（宮坂渉：筑波大学人文社会系准教授）

15:40-15:55　コメント１（駒込武：京都大学教育学研究科教授）

15:55-16:10　コメント２（水津太郎：東京大学法学政治学研究科教授）

16:10-16:25　休憩

16:25-17:30　質疑応答

・（報告）宮坂渉（1977～）「戦間期から戦時期にかけての古代ローマ法研究 ―田中周友と原田慶吉」（令和 6（2024）年 5 月 26 日（日）法制史学会第 75 回総会。貴重な資料あり。）（令和 6（2024）年 6 月 7 日追加）

（参考）

〈 https://www.jalha.org/wordpress/wp-content/uploads/2024/03/ca5c17ada0f4efae565d7de5659ff172.pdf〉

〈https://www.jalha.org/soukai2/〉

〈https://www.jalha.org/soukai2/%e3%80%90hp%e6%8e%b2%e8%bc%89%e7%89%88%

e3%80%91%e6%b3%95%e5%88%b6%e5%8f%b2%e5%ad%a6%e4%bc%9a%e7%ac%ac75%e5%9b%9e%e7%b7%8f%e4%bc%9a%e6%a1%88%e5%86%85%e7%8a%b6/〉

法制史学会第 75 回総会のご案内

春陽の候、会員のみなさまにおかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて法制史学会第 75 回総会（共催：大阪大学大学院法学研究科）は、対面方式で開催いたします。対面のみでの開催は 2019 年の第 71 回総会以来ですので、奮ってご参加ください。（以下中略）

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-6 大阪大学大学院法学研究科内

法制史学会第 75 回総会準備委員会（代表：林智良）

E-mail：jalha-75-colloquium@office.osaka-u.ac.jp

2 総会プログラム

第 1 日 5 月 25 日（土）（以下中略）

第 2 日 5 月 26 日（日）

9：30～ 12：30

〔ミニ・シンポジウム２〕「日本における法史研究の歴史（２）：1920-1945/50 年」

9：30～ 9：40 「趣旨説明」

田口正樹（東京大学）

9：40～10：15 「戦時期の日本法制史学と『固有法』の諸相」

小石川裕介（関西大学）

10：15～10：50 「黎明期における東洋法制史の担い手―内田智雄を例として」

鈴木秀光（京都大学）

10：50～11：05

休　憩

11:05～11:40「戦間期から戦時期にかけての古代ローマ法研究 ―田中周友と原田慶吉」

宮坂渉（筑波大学）

11：40～12：30　質疑応答

（以下中略）

（参考）

・CD-ROM『昭和の讀賣』新聞 戦後Ⅰ（1946 年（昭和 21 年 1 月 1 日）～1960 年（昭和 35 年 12 月 31 日））（平成 20 年 10 月 6 日追加）

① 1950（昭和 25）年 9 月 2 日夕刊 2 頁 3 段　訃報

② 1950（昭和 25）年 9 月 30 日朝刊 1 頁 15 段　編集手帳

③ 1959（昭和 34）年 7 月 14 日朝刊 1 頁 12 段　編集手帳

（下記: 平成 27 年 2 月 13 日追加）

⇒ヨミダス歴史館〈http://www.yomiuri.co.jp/database/rekishikan/about/〉

・朝日新聞「聞蔵Ⅱビジュアル」

「聞蔵Ⅱビジュアル」

〈http://www.asahi.com/information/db/2forl.html〉

⇒全面リニューアル（令和 4（2022）年 4 月 1 日）

〈http://www.asahi.com/information/db/2022renewal/〉

「朝日新聞社では、2022 年春に記事データベースを全面リニューアルしました。IT 環境の進化に合わせ、使いやすい画面デザインと新機能を取り入れました。また、サービス名称も聞蔵から「朝日新聞クロスサーチ」に変更し、新しいデータベースとして生まれ変わりました。」（令和 4（2022）年 7 月 2 日追加）

（調査中）

・原田慶吉教授出題試験問題（戦前期の『法律時報』に掲載その他）

⇒令和 6（2024）年 6 月 7 日「2 （6）原田慶吉教授試験問題」を新設し、一部掲載した。（令和 6（2024）年 6 月 7 日追加）

（10）インターネット関係

①　近年、「原田慶吉電子文庫」を有する和田徹氏のホームページ「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」（旧館は、平成 13 年 11 月 11 日開設、同 15 年 5 月 10 日閉鎖、新館に移転。）が公開されている。但し、時により閉館の場合あり。しかるに、近年はネット環境もよくなり、問題が既に解消されていることを附記しておく。(「しかるに」以下平成 25 年 8 月 12 日追加)　〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/〉
⇒令和 5（2023）年 12 月 31 日閉館（令和 6（2024）年 3 月 17 日追加）
⇒令和 6（2024）年 6 月 5 日再開（公開公表日）（令和 6（2024）年 6 月 7 日追加）
〈http://tosyokan.my.coocan.jp/〉

001 ： ローマ法の原理 W1
002 ： 民法七〇九条の成立する迄 W1
003 ： 「法学提要希臘語義解」第一巻邦訳 W1
004 ： 「法学提要希臘語義解」第二巻邦訳 W1
005 ： 「法学提要希臘語義解」第三巻邦訳 W1
006 ： 「法学提要希臘語義解」第四巻邦訳 W1
007 ： 我が国に於ける外国法史学の発達 W1

② 法制史学会ホームページ〈https://www.jalha.org/〉に、平成 18（2006）年 5 月 2 日、「法制史学会の歩み」のページが新設され、「1.法制史学会の立ち上げの頃」、「創立総会の記念写真（昭和 24（1949）年 11 月 23 日、於中央大学）」等が掲載された。原田教授の関係記事、御写真あり。〈https://www.jalha.org/history/〉

③ 国立国会図書館次世代デジタルライブラリーで再検索の要ありか。
〈https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/〉（令和 4（2022）年 4 月 1 日追加）

（11）久保正幡博士の御逝去（平成 22 年 7 月 11 日追加）

久保正幡博士（1911.11.26～2010.1.20）は、中田薫博士（1877～1967）の西洋法制史学における後継者であるとともに、原田慶吉教授（1903～1950）の御高弟でもあられたが、平成 22（2010）年 1 月 20 日（水）長逝された。享年 98。（「訃報 久保正幡名誉教授」『東京大学学内広報』No.1398（平成 22 年 4 月 23 日刊）68 頁）
〈https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400004872.pdf〉（令和 3 年 11 月 5 日追加）
（下記は当初の URL）
（HTML 版）
〈http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou/1398/06fuho.html〉
（PDF 版）
〈http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou/1398/pdf/1398.pdf〉

（久保正幡博士著作目録等抄）
・『久保正幡先生略年譜・主要著作目録』（久保正幡先生還暦記念出版『西洋法制史料選』（創文社、昭和 52 年 10 月刊）刊行に当たり作成されしもの。）
・『久保正幡略年譜・主要著作目録』（久保正幡先生編、B5 版、「定本」との称あり。平成 10（1998）年 7 月 31 日刊。上記の改訂版。）
・『久保正幡略年譜・主要著作目録』（久保正幡先生編、製作・洋販、A5 版、「付録写真集（平成 10（1998）年 10 月 20 日作成）」あり。「定本縮刷版及び付録写真集」との称あり。平成 10（1998）年 10 月 20 日刊。上記の再改訂版（先生御自身での完成版）。）
・『久保正幡先生・小林宏先生・山崎丹照先生略年譜・著作目録―ローマ法・法制史学者著作目録選（第四輯）―』（平成 16（2004）年 3 月 1 日刊。上記の再々改訂版。）
・『千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士・池辺義象氏略年譜・著作目録―日本ローマ法学七先生略年譜・著作目録（千賀博士・戸水博士限定追加版）― ―ローマ法・法制史学者著作目録選（第九輯）―』（平成 22（2010）年 3 月 31 日刊）あとがき（「ある春の掛川行―久保正幡先生・石野茂子氏・大日本報徳社―」石野茂子氏個人文芸誌『冀北文学』創刊号（掛川、平成 21（2009）年 12 月 28 日刊）所収を再録。）
・『CD 版 ローマ法、法制史、明治警察史及び日本統治下台湾警察史の諸問題―ローマ法・法制史学者著作目録選（第十三輯）―、―明治警察史雑纂（第四輯）―、―日本統治下台湾警察史雑纂（第八輯）―』（平成 30（2018）年 1 月 1 日刊。ただし冊子版は作成できず CD 版のみあり）（「久保正幡博士略年譜・著作目録（再訂稿）」を収録。）（平成 30 年 6 月 10 日追加）
・警察政策学会資料第 115 号警察政策学会警察史研究部会編『近代警察史の諸問題―川路大警視研究を中心に―（第二輯）―武藤誠氏・加藤晶氏・福永英男氏・戸髙公徳氏追悼記念論集―【下冊】』（警察政策学会、令和 3（2021）年 5 月 8 日刊）に下記三篇を収録。
同学会 HP〈http://www.asss.jp/〉⇒
〈http://www.asss.jp/report/%E8%AD%A6%E5%AF%9F%E6%94%BF%E7%AD%96%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E8%B3%87%E6%96%99115.pdf〉にアップ済。（令和 3 年 11

月 5 日追加）

・「久保正幡先生述「中田薫先生の思い出と法制史学会の回顧」メモ（要旨・未定稿）」（久保正幡先生、中田薫博士、原田慶吉教授各御遺影掲載）

・松村勝二郎「〈学びつつ老いる〉―久保正幡先生の思い出―」

・「中田薫博士関係資料抄―久保正幡先生御講演の参考として―」

・『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録―【参考篇】【附篇】―ローマ法・法制史学者著作目録選（第十五輯）―』（令和 4（2022）年 4 月 1 日刊）に「久保正幡博士略年譜・著作目録（三訂稿）」を収録。）（令和 4（2022）年 6 月 22 日追加収録。）（令和 4（2022）年 7 月 2 日追加）

〈https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I032127903〉

〈https://cir.nii.ac.jp/crid/1130010676870877056〉

・北康宏（1968～）『中田薫』（人物叢書、吉川弘文館、令和 5（2023）年 8 月 1 日刊）（久保正幡博士関連記載多し。）〈http://www.yoshikawa-k.co.jp/book/b626819.html〉

（令和 5（2023）年 7 月 18 日追加）

・本HP別稿: 「久保正幡博士著作目録等抄」

（最新改訂: 九訂稿。令和 6（2024）年 8 月 6 日（火）作成）

〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kubo001.pdf〉参照。

（令和 4（2022）年 7 月 2 日追加、令和 6（2024）年 8 月 11 日一部補正）

・「ある日の久保正幡先生―北康宏教授御新著『中田薫』に接して―」警察政策学会資料第 138 号『近代警察史の諸問題―川路大警視研究を中心に―（第五輯）』（警察政策学会、令和 6（2024）年 12 月刊）40～42 頁（令和 7（2025）年 2 月 25 日追加）

〈 http://www.asss.jp/report/%E8%AD%A6%E5%AF%9F%E6%94%BF%E7%AD%96%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E8%B3%87%E6%96%99%E7%AC%AC138C.pdf〉

（了）